



農業景況DI 去年は大幅悪化 今後の経営方針は 規模拡大が4割超

—2014年下半年 農業景況調査—

日本公庫の農業資金をご利用いただいているお客さまを対象に、2014年の農業景況調査、そして今後の経営方針について調査を行いました。

二、都府県が▲一〇・二から六〇・八ポイント低下し▲七一・〇となりました。

稲作以外でマイナス幅が二〇ポイント以上拡大しているのは、販売価格の低下や生産コストの上昇が見られる露地野菜（二五・一から▲一五・七）、施設野菜（一五・六から▲八・四）、肉用牛（二〇・五から▲一・二）、きのこ（四・七から▲二〇・七）、施設花き（▲二・八から▲三四・四）の五業種です。

プロイラーは、好調な販売価格に支えられ、景況が大幅に改善し、▲二二・四から一〇・四と二〇一〇年の調査開始以来、初めてプラス

に転じました。採卵鶏は四三・九から二八・六と低下しましたが、プラス値を維持しました。

全ての地域で悪化

地域別では、全ての地域で景況DIが悪化しました（図2）。特に、北陸地域は▲一〇・四から五七・四ポイント低下し▲六七・八、東北地域は▲三七・七から四九・六ポイント低下して▲五三・三となり、いずれも大幅にマイナス幅が拡大しました。

これらの地域は、今回の調査を業種別に見ると最もDIが低かった稲作が盛んなところです。回答

景況DIの調査結果 多くの業種でマイナス幅が拡大

二〇一四年（一～二月）の農業全体の景況感を示す景況DIは▲一・四（二〇一三年実績）から二・三ポイント低下して▲三三・七となり、マイナス幅が大幅に拡大しました（図1）。

これは、前回調査と比べ「良くなった」回答者の割合が低下し、「悪くなった」回答者の割合が高くなったためです。

業種別に見ると、全業種の中で最も高いものは販売価格が好調な養豚で、四三・六から二三・九ポイント増加し六七・五となりました。最も低いものは米価が下落して

図1 「景況」天気図

経営部門	2013年	2014年	2015年	
	実績	実績	通年見通し	
農業全体	▲1.4	▲33.7	▲32.4	
耕種部門	▲5.1	▲43.7	▲38.7	
畜産部門	8.4	5.9	▲7.4	
耕種	稲作(北海道)	▲4.2	▲67.2	▲67.1
	稲作(都府県)	▲10.2	▲71.0	▲61.0
	畑作	▲27.6	▲5.3	▲19.8
	露地野菜	15.1	▲15.7	▲15.8
	施設野菜	15.6	▲8.4	▲1.1
	茶	▲44.8	▲55.0	▲47.7
	果樹	6.3	▲12.7	▲1.1
	施設花き	▲2.8	▲34.4	▲10.4
	きのこ	4.7	▲20.7	▲12.2
	酪農(北海道)	▲9.4	▲4.1	2.9
酪農(都府県)	▲23.8	▲30.9	▲16.1	
畜産	肉用牛	20.5	▲1.2	▲12.3
	養豚	43.6	67.5	10.3
	採卵鶏	43.9	28.6	▲30.4
	プロイラー	▲22.4	10.4	▲19.4

DIの値とお天気マークの関係



者全体に占める稲作の割合が、他の地域と比べて高いため、DIの値に影響を及ぼしたものと考えられます。

生産コストDIは、農業全体で▲六二・九から三・四ポイント低下し▲六六・三となりました(図3)。

原油、穀物の国際市況は若干下落しつつありますが、円安が進行した影響もあり、耕種部門、畜産部門ともに生産コストDIは依然として厳しい状況にあると考えられます。

部門で明暗分かれる

販売単価DIは、農業全体で▲一一・二から二八・九ポイント低下し▲四〇・〇となりました(図4)。耕種部門が▲三三・三から二八・四ポイント低下し▲六一・七と前年より大幅に悪化したのに対し、畜産部門は五一・七から三・六ポイント低下して四八・一と前年に続き、好調を維持しています。

業種別では、米価が下落している稲作(北海道:三六・七ポイント低下で▲八八・六、都府県:二九・五ポイント低下で▲八八・二)が、全ての業種の中で最も悪い結果となりました。また、消費低迷が続く茶は一・九ポイント低下で▲六四・〇と依然として厳しい状況にあり

図2 「地域別景況」天気図

地域 []内は都府県名	2013年 実績	2014年 実績	回答に占める 稲作の割合 (%)
北海道	▲9.4	▼ ▲31.7	43.5
東北 [青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島]	▲3.7	▼ ▲53.3	66.5
関東 [茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡]	6.5	▼ ▲27.4	23.4
北陸 [新潟、富山、石川、福井]	▲10.4	▼ ▲67.8	84.2
東海 [岐阜、愛知、三重]	4.4	▼ ▲19.9	15.2
近畿 [滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山]	5.9	▼ ▲35.1	41.8
中四国 [鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知]	0.5	▼ ▲20.1	26.3
九州 [福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島]	6.5	▼ ▲6.9	9.4

図3 「生産コスト」天気図

経営部門	2013年	2014年	
	実績	実績	
農業全体	▲62.9	▼ ▲66.3	
耕種部門	▲57.5	▼ ▲63.7	
畜産部門	▲79.0	→ ▲77.0	
耕種	稲作(北海道)	▼ ▲63.0	▼ ▲69.0
	稲作(都府県)	▲43.6	▼ ▲53.2
	畑作	▲70.4	▼ ▲78.2
	露地野菜	▲65.1	→ ▲67.5
	施設野菜	▲64.5	→ ▲63.4
	茶	▲68.5	▼ ▲72.5
	果樹	▲55.8	▼ ▲67.0
	施設花き	▲70.7	→ ▲72.8
	きのこ	▲64.0	▼ ▲74.4
	畜産	酪農(北海道)	▲81.9
酪農(都府県)		▲83.5	→ ▲83.6
肉用牛		▲83.1	→ ▲81.9
養豚		▲69.9	→ ▲59.8
採卵鶏		▲79.9	→ ▲78.6
ブロイラー	▲76.1	→ ▲59.7	

■天気図の見方について

天気図は、次のようにして算出されたDI (Diffusion Index) と呼ばれる指標により作成しています。アンケートの各項目への回答は、「①良くなった ②変わらない ③悪くなった」から1つ選ぶ形式となっており、この3種類の回答数を計算し、その構成比 (%) を用いて次式によりDIを算出します。「①良くなった」 (%) - 「③悪くなった」 (%) = DI

ます。

一方養豚は、飼養戸数の減少、豚流行性下痢(PED)などの影響で供給量が減り、一四・〇ポイント上昇の八四・一と全ての業種の中で

最も高い結果となりました。また、

ブロイラーは、堅調なむね肉の加工需要、中国での消費期限切れ鶏肉事件を契機として国産鶏肉のニーズが高まったことで▲三二・

四から三二・八ポイント上昇し一〇・四となりました。

設備投資見込みDIは、農業全体で▲二一・一から一〇・〇ポイント低下し▲三一・一となりました

(図5)。

業種別では、耕種は全ての業種で前年よりも悪化しています。

特に、米価が下落した稲作(北海道：二七・二ポイント低下で▲四七・九、都府県：二七・三ポイント低下で▲三五・一)はマイナス幅が拡大しています。回答者数のうち稲作が全体の約四〇%を占めることから、農業全体の設備投資見込みDIを押し下げる要因となっています。

一方、畜産は全ての業種で上昇しています。特に、養豚は▲一・五から一三・三ポイント上昇し一一・八となり、全業種の中でも唯一プラスとなりました。このことから、畜産では設備投資に前向きな生産者が増加していることがうかがえます。

今後の経営方針に係る調査結果

稲作、畑作で規模拡大意欲

「今後の経営方針として検討していること」について、聞きました。その結果、「生産規模の拡大」が四六・二%と最も高い結果となりました(表)。

業種別では、畑作(五六・〇%)と、稲作/都府県(五四・六%)で「生産規模の拡大」が半数を超えて

図4 「販売単価」天気図

経営部門	2013年	2014年
	実績	実績
農業全体	▲11.1	▲40.0
耕種部門	▲33.3	▲61.7
畜産部門	51.7	48.1
稲作(北海道)	▲51.9	▲88.6
稲作(都府県)	▲58.7	▲88.2
畑作	▲36.2	▲30.5
露地野菜	17.0	▲33.5
施設野菜	▲0.4	▲32.8
茶	▲62.1	▲64.0
果樹	▲1.4	▲25.4
施設花き	▲21.1	▲47.0
きのこ	1.2	▲22.0
酪農(北海道)	36.0	59.3
酪農(都府県)	51.7	23.0
肉用牛	59.0	46.4
養豚	70.1	84.1
採卵鶏	82.3	53.6
ブロイラー	▲22.4	10.4

図5 「設備投資見込み」天気図

経営部門	2014年	2015年
	1月調査	1月調査
農業全体	▲21.1	▲31.1
耕種部門	▲20.0	▲35.8
畜産部門	▲25.9	▲12.8
稲作(北海道)	▲20.7	▲47.9
稲作(都府県)	▲7.8	▲35.1
畑作	▲24.9	▲25.6
露地野菜	▲17.8	▲30.4
施設野菜	▲28.5	▲30.8
茶	▲35.6	▲39.4
果樹	▲32.9	▲36.6
施設花き	▲44.7	▲47.4
きのこ	▲14.0	▲26.8
酪農(北海道)	▲44.5	▲27.2
酪農(都府県)	▲28.3	▲14.4
肉用牛	▲27.0	▲17.8
養豚	▲1.5	11.8
採卵鶏	▲20.5	▲7.1
ブロイラー	▲22.4	▲4.5

います。特に、稲作は二〇一五年通年見通し景況DIが(北海道：▲六七・一、都府県：▲六一・〇)と低迷する中であっても、高い結果となりました。

「新技術の導入」については、畑

作(四八・八%)、養豚(四六・四%)、酪農(北海道：四三・三%、都府県：四〇・五%)、施設野菜(四一・〇%)で高い結果となりました。

畑作は、ICT技術(情報処理や情報通信に関する技術の総称)を

活用した機械の利用が今後見込まれること、養豚は飼料給与方法の工夫などが見込まれること、酪農では性別技術が普及しつつあることからこのような結果になったと推測されます。

果樹と花きで新品種導入に関心

「新品種の導入」については、施設花き(五七・七%)、果樹(四六・二%)畑作(四〇・四%)の三業種で高い結果となりました。

また稲作(北海道:三六・九%、都府県:二九・九%)は、比較的高い結果が示されています。稲作では、生産規模を拡大するに当たって、収穫時期が異なる品種や食味のよい品種などの導入がさらに進むことが推察されます。

「販路開拓(消費者への直販)」については、採卵鶏(四八・六%)、茶(四七・〇%)、果樹(四三・三%)、稲作/都府県(三八・一%)で高い結果となりました。

採卵鶏を除く畜産部門については、耕種部門と比較して総じて低い結果となりました。これは、自ら処理・加工することが難しいという面もあるものと推察されます。

(情報企画部 藤嶋 吉宏)

〔調査概要〕

● 調査時点・方法

二〇一五年一月・郵送調査

● 調査対象

スーパール資金/農業改良資金

融資金(計二万二六六先)

● 有効回答数

七九六六先(回収率三五・一%)

表 今後の経営方針として検討していること(3つまで回答)

	生産規模拡大 (%)	新技術の導入 (%)	新品種の導入 (%)	作目の追加・転換 (%)	栽培・飼養方法による農産物の差別化 (%)	農産物の加工 (%)
全業種 (7845)	46.2	36.1	30.5	25.4	15.7	9.1
耕種 (6290)	46.9	35.2	35.2	29.3	15.0	9.5
畜産 (1499)	43.4	40.3	11.4	9.8	18.7	6.5
稲作 (北海道984)	46.0	37.0	36.9	32.8	10.4	5.6
稲作 (都府県2267)	54.6	31.9	29.9	31.1	15.0	10.5
畑作 (678)	56.0	48.8	40.4	33.2	11.1	6.6
露地野菜 (630)	48.3	34.3	36.3	32.4	16.7	9.8
施設野菜 (566)	38.2	41.0	33.4	19.4	16.1	10.2
茶 (219)	35.2	19.6	20.5	17.4	24.7	10.0
果樹 (383)	25.3	26.6	46.2	21.9	18.0	17.2
施設花き (246)	25.6	33.7	57.7	31.7	14.6	3.3
きのこ (82)	28.0	37.8	30.5	13.4	28.0	24.4
酪農 (北海道312)	42.6	43.3	9.9	7.1	11.9	2.6
酪農 (都府県316)	40.5	40.5	8.9	14.6	13.9	7.6
肉用牛 (405)	47.2	37.8	11.1	13.6	26.7	4.0
養豚 (237)	47.7	46.4	21.5	6.8	18.6	8.9
採卵鶏 (109)	32.1	29.4	3.7	1.8	22.9	13.8
ブロイラー (63)	44.4	38.1	4.8	4.8	19.0	9.5

	販路開拓 (消費者への直販) (%)	販路開拓 (食品事業者) (%)	輸出促進 (%)	現状維持 (%)	その他 (%)
全業種 (7845)	26.7	9.3	3.7	25.7	4.7
耕種 (6290)	29.8	9.8	3.7	23.6	4.0
畜産 (1499)	13.5	6.0	3.3	34.8	7.8
稲作 (北海道984)	25.5	8.4	2.7	29.8	5.2
稲作 (都府県2267)	38.1	9.0	3.3	19.3	3.8
畑作 (678)	11.4	8.8	1.0	24.9	2.7
露地野菜 (630)	20.0	13.3	1.6	25.1	3.8
施設野菜 (566)	23.5	10.6	5.3	27.6	3.5
茶 (219)	47.0	14.6	21.0	20.1	8.7
果樹 (383)	43.3	13.8	5.0	24.3	2.9
施設花き (246)	24.8	2.8	3.3	28.5	4.5
きのこ (82)	35.4	25.6	1.2	11.0	4.9
酪農 (北海道312)	3.8	1.0	1.9	45.8	11.2
酪農 (都府県316)	7.6	3.2	0.6	40.5	6.0
肉用牛 (405)	14.1	4.7	8.6	29.6	6.2
養豚 (237)	14.8	9.3	1.7	27.4	8.4
採卵鶏 (109)	48.6	26.6	1.8	25.7	7.3
ブロイラー (63)	12.7	3.2	0.0	33.3	3.2

(注1) 分類不可能な事業体については耕種、畜産の合計から除く

(注2) カッコ内の数字は回答数を示す